

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3577200524		
法人名	医療法人 山口平成会		
事業所名	グループホーム へいせいホーム		
所在地	山口県岩国市玖珂町1340番地		
自己評価作成日	平成29年6月29日	評価結果市町受理日	平成29年11月30日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成29年7月31日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は病院に併設しており、定期受診や些細な変化に対応できるだけでなく、急変時にも迅速な対応が可能となっている。それによりご利用者様・御家族さまにより安心を提供できている。病院内には多職種の職員が勤務しているため、気軽に相談・援助が受けられ必要な時に必要なケアの提供ができる。2ユニットの間には中庭・畑・花壇を設けており、園芸治療士と利用者様と共に畑作業や花壇のお手入れなど行うことができる。在宅にて過ごされておられた生活習慣をそのまま継続することが出来、皆様の活躍の場・くつろぎの場となっている。月に1回は外食又はドライブ、個々のレベルに合わせて地域の行事に参加・希望に応じての買い物も企画しており、個々が楽しみと生きがいを持って生活できるよう工夫している

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人で用意された食材や自家菜園で採れた野菜や差し入れの果物を活用され、三食とも事業所で食事づくりをしておられます。利用者は、野菜の下ごしらえや盛りつけ、お茶配り、食器洗い、お盆拭きなどできることを職員と一緒にしておられ、利用者と職員は同じテーブルで同じものを食べておられます。季節毎の行事食やおやつづくり、誕生日のケーキづくり、梅ジュースや梅ジャムづくり、外出してパンを買って食べられたり、おやつを買って公園で食べられたり、お弁当を買って花見をしておられるなど、「食」を通した様々な工夫をされて、食事が楽しめるように支援しております。市広報などから情報を得られて、地元の伝統行事や門松づくり、苔玉づくりなどの教室に利用者が参加しておられる他、傾聴ボランティアの来訪や中学生の職場体験を受け入れ、散歩や買い物時には、地域の人と挨拶を交わしておられるなど、地域とのつながりを深めておられ、利用者が地域とつながりながら生活できるように支援しておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎年理念の見直しを行っており、スタッフで話し合って決めた理念を施設内の見えやすいところに掲示している。いつでも確認出来、またその理念が日常のケアの根本になっている	職員全員で話し合い、新たに【地域の中で、認知症高齢者が生き生きと生活できるよう、「利用者本位」をモットーに、優しさと温かみのあるグループホームを目指します。】という理念をつくり、事業所内に掲示している。管理者と職員は、理念を共有して実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議を通じてお招きいただく地域のお祭り。また地域の広報誌に掲載されているイベントに参加するなどし、多方面に交流が広がるよう努めている。	利用者は、地域の高森天神祭やどんと焼き、門松づくり、苔玉づくり等の行事に参加している他、法人の小規模多機能型居宅介護事業所と合同の夏祭りには自治会長を招待し、ゲームをして交流している。傾聴ボランティアの来訪や中学生の職場体験を受け入れている。利用者は散歩や買物時に、地域の人と挨拶や会話を交わしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議・近隣中学生の職場体験学習などの場で利用者様と直接触れ合っていたり、認知症ならではの行動・心理についての理解を深めてもらえるような取り組みを行っている		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	評価の意義を理解するため、管理者は研修会に参加している。そこで学んだ内容を職員に伝達講習を行い、全職員で全項目を考えながら自己評価に取り組んでいる。自己評価の内容が日々行っている介護の内容として定着している	管理者は、評価の意義の説明し、職員全員に、評価するための書類を配布して記入してもらい、まとめている。前回の外部評価結果を受けて、目標達成計画を立て、自己評価への取り組みと不審者対策を含む防災に関するマニュアルの作成について、改善に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で、施設の目標や評価・取り組み等を報告しており、それに対し、たくさんの意見や提案を戴いている。いただいた意見は議事録を通して職員に周知し、サービスに活かしている。	会議は2ヶ月に1回開催し、利用者の現状報告、行事報告、地域別入居状況、職員の状況、各ユニット目標と評価の報告、外部評価への取組状況等について報告し、話し合っている。風水害や避難訓練時についての意見や自治会長による消火器の点検方法の教示、「高次脳機能障害とは」等の勉強会の開催など、意見をサービスの質の向上に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センター職員が運営推進会議に参加されている。不明な点など有ればその都度電話にて気軽に問い合わせしている。馴染の関係が出来ている	市担当者とは、直接出向いたり、電話やFAXで情報交換したり、相談をして助言を得ている他、岩国市地域密着型連絡協議会参加時に意見交換し、協力関係を築いている。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議の他、電話で事例の相談や情報交換を行うなど、連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内においても、グループホーム内においても勉強会を通じて法律を把握している。常に自分達の介護を振り返る環境にある	身体拘束については内部研修で学習し、職員は理解して抑制や拘束のないケアに努めている。スピーチロックについては、日頃から管理者が指導している。玄関は施錠せず、外出したい利用者とは、職員と一緒に出かけている。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内においても、グループホーム内においても高齢者虐待法をもとに虐待について学ぶ機会を設けている。それと同時に個別面談を設けるなどし、職員の身体面・精神面にも目を向けている。ニュースなどで取り上げられた事件等は印刷し皆で周知している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員も研修に行くなどし、制度の理解を深めている。不明な点は社会福祉協議会職員に話を聞いたり、成年後見制度についても関係者と話が出来る環境にある		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約・改定等の説明は全て管理者が立会いわかりやすい言葉で説明し、理解と納得・同意を得ている。不明な事柄に対してもその都度対応している		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を設置しわかり易いところへ掲示している。契約時にも窓口の説明を行っている。常日頃より御家族様が気軽に意見や要望が言える環境作りにつとめている。戴いた意見は記録し全職員が周知出来るようにしている。法人として第三者委員を設けている	苦情の相談の窓口や受付担当者、外部機関を明示し、苦情処理手続きを定めて、契約時に家族に説明している。面会時や運営推進会議出席時、年1回の家族会、ケアプラン作成時、電話等で家族からの意見や要望を聞いている。事業所だよりに、写真や職員のコメント、手紙をそえて毎月送付しており、家族からの意見が出しやすい関係づくりに努めている。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は日常的に職員が意見しやすい環境・関係づくりに努めている。毎月の職員会議に加え年に1回個人懇談を設けそこで挙げられた意見を業務の改善や意識改革に反映させている	月1回の職員会議で、職員からの意見や提案を聞く機会を設けている他、管理者は、普段から職員に直接声をかけるなど意見をいいやすい環境を整えている。法人内の身体拘束廃止委員会や医療安全委員会、図書委員会、給食委員会に職員が参加し、意見交換をしている。職員からは、業務手順や業務内容の見直し、物品の修理や交換等の意見や提案があり反映している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人として、全職員対象の職員人事考課を行っている。全職員が人事考課の意味を理解したうえで適切に行っているため、偏りなく平等に評価され、反映されている。またフィードバックされており、自信の評価点を知る事が出来る。良いところを評価し、また次のステップに向けての期待点も助言しており、意欲や向心を持って働けるように努めている		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全職員対象で法人内の勉強会にも参加しているが、GH内で職員が講師役となり、勉強会も行っている。講師役となることで、個々のスキルアップに繋げている。看護師にも講師になっていただき、自分たちが知りえない知識も身につける事ができている。最近は動画サイトを見て勉強できる環境も整っている	外部研修は、職員に情報を伝え、受講の機会を提供している。終了後は、復命報告をしている。法人研修は、年4回、介護技術研修(入浴、食事介助、移乗、おむつ交換等)やケアマネ研修、管理者研修があり、職員が参加している。内部研修は、月1回職員が交代で講師を務め、虐待、身体拘束、認知症、感染症、個人情報保護、権利擁護等について実施している他、法人の看護師を講師として、皮膚疾患の感染、石鹸及び軟膏の塗布についてなどを学習し、受講後はレポートを提出している。新人職員には、先輩職員が、日頃の勤務の中で働きながら学べるように支援している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	岩国市地域密着型サービス事業者連絡協議会に所属し、他施設との交流会や研修会に参加している。そこでの勉強会・情報交換を通して自分自身の視野も広がりますスキルアップや、提供するサービスの質の向上に繋がっている		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には事前訪問し利用者様の現状や要望等の把握を行っている。今までの生活が継続できるよう事前準備も進めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に事前訪問をしご家族様からみて困っている事や要望などをお聞きしている。初期の段階より本音で話ができるような関係づくりにも努めている。グループホームとしての特性が活かせるようにケア内容等の提案もさせていただいている		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前訪問で得た情報や、皆さんの希望を元にグループホームならではのケアプランを作成している。その時必要であるサービスが利用できるよう助言も行っている。達成できる目標を掲げ、作成にあたっている		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様に対して常に尊敬の気持ち接している。生活の中で、「できる事」に目を向け、利用者様と共に協力しあい、支えあいながら生活している		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	GH情報誌「陽だまり」で利用者様のご様子を、お手紙も交え詳しくお知らせしている。面会時など家族様としっかり会話をしより密な関係づくりに努めている。外出支援等ご家族様と協力して行っている		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様のご遠方のご家族・友人などの関係を継続する為に陽だまりやお手紙・お電話などの支援をさせていただいている。	家族の面会や親戚の人、友人、同敷地内施設の知人、近所の人の来訪がある他、手紙の返事、暑中見舞いや年賀状のやりとり、電話の取次ぎなどの支援をしている。長年働いていた駅舎や昔グランドゴルフをした場所へのドライブ、家族の協力を得ての法事への出席、一時帰宅して親戚との外食、孫の結婚式への出席等に出かけるなど、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を周知し、席の配置等も決めている。コミュニケーションが不得な方に関しては職員が架け橋となり対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても直ぐに関係を打ち切ることはしておらず、ご家族様と連絡を取り合ったり、次施設に移られた利用者様を尋ねに行くなどしている。何か困った時にいつでも相談・支援が出来るよう努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いは日頃からの発言・態度などからくみ取り、ケア内容に繋げている。意思伝達困難な時は利用者本位を元にご家族様からの意向も取り入れるなどして	入居時のアセスメント表を活用している他、日常の関わりのなかでの利用者の生活状況を介護記録や管理日誌に記録し、利用者を担当している職員が記録したカンファレンスシートなどから、一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。困難な場合には、記録を基にカンファレンスで話し合い、本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の暮らしにより近づけるように事前訪問時、ご家族様・事業所スタッフから様々な情報提供いただき、それまでの生活が可能な限り継続できるよう努めている		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の現状把握は小まめな観察と記録、そして申し送りを全員で共有している。日々の申し送りがカンファレンスの機能を果たせるよう努めている		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	常日頃から、主治医・リハビリスタッフ・等と密に連携をとり意見交換をしている。ケアカンファレンス・モニタリング・サービス担当者会議で出た意見を元に、現状に即し達成できるケアプランを作成している	計画作成担当者や利用者の担当している職員を中心に、ケアカンファレンスを開催し、利用者や家族の要望、かかりつけ医の意見、法人の理学療法士等の意見を参考にして話し合い、介護計画を作成している。月1回、モニタリングを実施し、3か月毎に計画の見直しをしている他、本人の状態に変化が生じた場合は、その都度見直して、現状に即した計画を作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の管理日誌や個別申し送り帳・カンファレンス記録・電子カルテなど様々な様式に基づき細かな記録をしている。また担当制にすることでより多くの気づきを持って、こまかな事でもケアプランに反映するよう心掛けている		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	固定概念にとらわれないよう、柔軟な思考を持ち、一瞬・一瞬のありのままを受け入れ対応している		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に出掛けていたり、ボランティアさんに来ていただいたり、利用者様の求めている事・レベルに応じて心豊かな対応が出来るよう支援している		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に本人やご家族様にかかりつけ医や、協力病院での受診希望を伺っている。常にかかりつけ医とはこまやかに連絡をとり、適切な医療が受けられるよう支援している	利用者、家族の同意を得て、事業所の協力医療機関をかかりつけ医としており、月1回受診の支援をしている。他科受診は、家族の協力を得て支援し、眼科、耳鼻咽喉科等へは主治医の紹介状を持って受診している。受診結果は、面会時や電話で家族に伝えている。緊急時や休日、夜間は併設の医療機関の支援を得て、適切な医療が受けられるよう支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力病院看護師と常に情報の共有を行っているため、相談しやすい環境にある。緊急時の対応や、疾患について、高齢者特有の症状などの勉強会なども講師として参加いただいている		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様が入院された時は、入院先の地域連携スタッフと小まめに連絡をとり、状態把握・早期に退院できるような体制づくりを心掛けている。退院後の不安も共に考えていくことで治療に専念できる環境を提供している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化が考えられる時は、ご家族様の希望と、施設で対応できる範囲を含めて、早めに話し合いを設けるようにしている。終末期ケアについては行っていないが、介護の力で可能な限りは看させていただく事を、申し込み時・入居前に説明し納得を得ている	契約時に、重度化や終末期に事業所でできる対応について家族に説明している。実際に重度化した場合には、利用者や家族の意向を踏まえた上で、かかりつけ医と相談し、他施設や医療機関への移設を含めて方針を決めて全員で共有し、支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	利用者個々のリスクをスタッフで話し合い、即対応しリスク軽減に努めている。ヒヤリ・ハットを見逃さないようインシデント・アクシデントレポートの作成も行っている。応急手当などは看護師より教わっている	事例が発生した場合は、インシデント、アクシデントレポートに記録し、管理者と当日の職員で話し合っている。法人の医療安全委員会に報告し、検討した内容は、各ユニットに持ち帰り職員間で共有して再発防止に取り組んでいる。事故対応については、年に2回、看護師を講師として、皮膚トラブルと軟膏の塗布方法などについて学んでいるが、応急手当や初期対応について全職員が実践力を身につけているとは言えない。	・全ての職員に対する応急手当や初期対応の定期的訓練の実施
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年、グループホーム独自の防災訓練・風水害訓練・地震対策など利用者様を交えて行っている。施設近隣に住んでいる職員が駆けつけられる連絡網の整備等体制作りも行っている 地域の方との協力体制は築いていないが、消防訓練等は実際にみていただき、ご意見いただいている	年2回、拠点他施設と合同の火災訓練に職員が参加している他、事業所独自で、自治会長の立会いの下、消防署の協力を得て火災訓練を行っている。風水害や地震時の避難誘導訓練を利用者と一緒に実施している。防災対策として、近隣の住民の協力を得ながら、拠点施設全体の協力体制を構築している。不審者対策への取り組みとして、「不審者侵入時緊急マニュアル」を作成している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日頃より個人を尊重し、個人の意思を大切にしていけるようなケアや声掛けを行っている。虐待や接遇についての勉強会も開催し、自分の介護を振り返る機会を設けている	職員は、個人情報保護や権利擁護に関する内部研修で学び理解して、利用者の自尊心を傷つけず、プライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中でも自己決定をしていただける場面をより多く持つように声かけを工夫している。ケアプラン作成時などは必ず希望を聞き、取り入れるようにしている		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	各々やりたい事・やりたくない事は日々異なるため、その都度声かけを行い、自己選択をしていただいている。集団より個別ケアを心がけている		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己選択可能な方には朝の更衣時など好みの服を選んでいただいている。外出前にはお化粧される方もおられる為、その時間を大切にしている。散髪時なども職員が架け橋となり、好みの髪形を伝える等している		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	様々な食事形態の方がおられるが、自力摂取出来るような食器の選択や食事形態・食思向上するような盛り付けなどに気を配りながら提供している。職員と共に作り共に食べることで食卓に沢山の会話が生まれる。可能な限り一緒に準備～片づけも行っている	法人の用意した食材を利用して、三食とも事業所で調理をしている。自家菜園で採れたゴーヤ、ナス、ジャガイモ、サツマイモなどの野菜や家族からの差し入れの果物を活用している。利用者は、野菜の下ごしらえや盛りつけ、テーブル拭き、お茶配り、下膳、食器洗い、お盆拭きなど、できることを職員と一緒にしている。利用者と職員は同じテーブルで同じものを食べている。季節毎の行事食やおやつづくり(ホットケーキ、アジサイ餅、七夕ゼリー、たこ焼き等)、誕生日のケーキづくり、梅ジュースや梅ジャムづくりの他、外出してパンを買って食べる、おやつを買って公園で食べる、お弁当を買って花見をするなど、「食」を通した様々な工夫をして、食事が楽しみなものになるように支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の好みを把握し、食事を提供する量にも気をつけている。摂取量の少ないときは付加食を提供したり、おやつ時に補食を取り入れたりしながら個々に適した食事量・水分量が確保出来るよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後職員付き添いの元口腔ケアを実施し、毎回小まめにチェックを行っている。問題発生した時は、協力病院の歯科衛生士に相談し、早めの対処を行っている。治療が必要な場合は歯科受診を行っている		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄時間・排泄量・排泄前行動など、個々の状況把握をし、トイレでの排泄ができるようケアしている。オムツ使用者もトイレに座っていただき、排泄能力の維持に努めている。失敗を軽減していく事で自信をつけられた方もおられる	職員は、利用者の排泄パターンを把握しており、時間を見図りながら、一人ひとりに合わせた声かけや誘導をして、トイレでの排泄ができるように支援している。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬に頼らず食事面からのアプローチ(水分摂取強化・食物繊維を取り入れる等)を積極的に行っている。体操・散歩なども取り入れ便秘予防に取り組んでいる		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	毎日入浴できる環境を作っており利用者様の希望を伺いながら対応している。入りたい時間や一緒に入りたい仲間の希望も大切にしている。入浴を拒否される方もおられるため、お誘いするまでの過程を大切にしている	入浴は毎日、13時30分から16時までの間可能で、利用者の希望やタイミングに合わせて入浴できるように支援している。入浴時には、音楽を流してリラックスできるようにしたり、季節によってゆず湯にしたり、入浴剤の色や香りを楽しむなど工夫している。入浴したくない人には、無理強いせず、日時を変えたり、職員を交代するなどして支援している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居時に馴染みある布団やシーツをお持ちいただき、安心できる居室空間を作っている。個々で睡眠時間を把握し、安眠できる声掛けを行っている。寝間着や布団の温度調整も個々で違うためきちんと状態把握を行ない、その都度対応している		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	介護スタッフが受診に付き添うことで薬が処方される目的を知っている。薬情などを読み効能・副作用についても各々勉強し、体調の変化にも即座に気づけるように努めている。不安な事はかかりつけ薬局へ問い合わせ等も行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今まで過してこられた生活歴も大事にしつつ、現在の状態を受け入れ、各々が活躍できる場の提供を行っている。(お菓子づくり・お花を育てる等)それにより笑顔が増えるよう支援している	テレビ視聴、新聞や雑誌を読む、箱づくり、折り紙、はり絵、ちぎり絵、こいのぼりや兜づくり、脳トレ(計算、点つなぎ)、パズル、歌を歌う、リハビリ体操、風船バレー、輪投げ、ボーリング、布巾縫い、ボタン付け、ペットボトルの楽器演奏会、ほうきやモップで掃除する、洗濯物干し、洗濯物たたみ、うさぎの餌やり、夏祭り、すいか割り、花火大会を見る、誕生日会、母の日、敬老会、クリスマス会、書初め、新年会、節分、バレンタインデー、ひなまつり、カラオケ大会、お茶会、園芸療法(パンジーで押し花作品、暑中見舞いはがきづくり、ポプリをつくる、稲を植える、水やり、野菜の栽培と収穫)など、利用者が喜びや張り合いのある暮らしができるように支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	ユニットでのお出かけは、皆さんの希望を取り入れ、毎月1回は実施するようにしている。その他個別対応として町内のお祭り・馴染みのスーパーへの買い物などに出かけ、地域の方や馴染みの方と触れ合っている	近隣への散歩や買い物、季節の花見(桜、菜の花、紫陽花、紅葉)、ドライブ(錦帯橋、ウェルネスパーク、ピュアライン錦、下松スポーツ公園、冠梅園等)、高森天神、初詣など外出の機会をつくっている。昔勤務していた駅舎やグランドゴルフをした馴染みの場所や家族の協力を得ての一時帰宅や孫の結婚式への出席など、個別での外出の支援をしている。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員付き添い見守りの元お預かりしているお金を使い売店での買い物・外出先でのお土産の支払いを行っている		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様からの手紙をいつでも読めるようファイルしたり、お礼の電話を掛けたり、希望があれば返事を書いたり馴染みの関係が途切れないようお手伝いしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂や居間からは畑や花壇がみえ、季節を感じる事が出来る。居間の飾り付けも季節が感じられるものとなっており、皆さんの憩いの場所となっている。皆さんにとって心地いい空間であるよう、その都度対応している。余暇の時間は演歌を掛けるなどし、ゆったり過ごせる環境を提供している	ユニット間のリビングの大きな窓から見える中庭には、野菜畑が広がり、春には桜、夏にはゴーヤのグリーンカーテン、秋には金木犀や銀木犀の花の香りを楽しむことができる。リビングには、利用者の状況を見て配置替えできるテーブルやイス、ソファ、テレビを置いている。畳の間では、パズルをしたり、洗濯物をたたんだり、足を伸ばしたり、冬にはこたつを出して横になることができる。壁には、季節の花の紙作品や押し花で文字を表した利用者の作品などが飾ってある。室内は、加湿器や湯を沸かすなど、温度や湿度、換気にも配慮し、居心地よく過ごせるようにしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お部屋でゆっくりされたい時は、居室で過ごされている。共用空間の中でもソファや、テーブル席畳コーナーがある為、用途に応じてそれぞれお好きな場所にて、気の合う仲間と過ごされている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	寝具・家具・飾り物は今まで使用されていた馴染みある物をお持ちいただいている。家族の写真をお持ちいただく事で在宅とかわりなく居心地よく安心して過せるよう配慮している	寝具やテーブル、イス、整理タンス、化粧品、ドライフラワーアレンジメント、色紙、似顔絵、カレンダー、アルバム、家族写真、時計など利用者の使い慣れたものや好みのものを持ち込み、居心地よい空間づくりに努めている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来るだけ分かりやすい表示に心掛け、安全かつ自立した生活が送れるよう環境を整えている。置き場所を変える等という事は極力控えている		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム へいせいホーム

作成日: 平成 29年 11月 30日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	事故防止の取り組みや事故発生時の備えとしての実践的訓練不足	全職員が実践力を身につける	看護師、または外部講師に協力いただき定期的訓練の実施	1年間
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。